

早く見つけて
早くなおすために

がん検診を

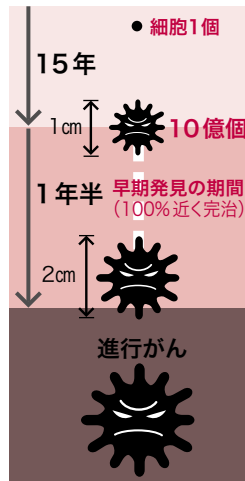
今、『がん患者』が増えています

今、日本人の2人に1人ががんになると言われています。また、日本人の死亡者のうち3人に1人、65歳以上では2人に1人ががんで亡くなっています。

早期にがんを発見できる期間は限られます

たった1個の細胞から発生するがんは、長い時間をかけて増殖します。一般的ながんの場合、直径1cmほどの『初期がん』になるまでに、10数年から20年かかります。

1cm以下の『初期がん』は検査しても発見が困難です。2cmくらいまでを『早期がん』といい、『初期がん』から『早期がん』になるのは1年半くらいの短い期間です。この期間にがんを見つけることが大事です。



検診は、早期のがんを発見できます

がん検診のメリットは、『自覚症状のない早期のうちに発見できる』ことです。下表のとおり、検診で見つかったがんは早期がんの場合が多いです。早期発見のために、毎年がん検診を受けましょう！

市のがん検診で見つかったがん〈平成20年度〉

区分	胃がん	肺がん	大腸がん	乳がん	子宮がん	合計
がんが見つかった人	11人	3人	11人	3人	3人	31人
うち早期がんの人	7人	2人	4人	2人	2人	17人

～検診が有効とされる

①女性に急増 がん死亡率のトップ 肺がん



喫煙との関係が深いことが科学的に証明されていますが、たばこを吸わない人にも発生します。

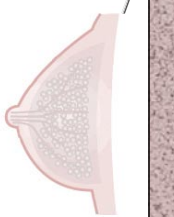
③食の欧米化で増加傾向 大腸がん

胃がんに次いで3番目に多いがんです。食生活の欧米化に伴い、患者数は増え続けています。部位別には直腸とS字結腸のがんで7割を占めます。飲酒との関係も指摘されています。



④マンモ検診で早期発見 乳がん

壮年期の女性に多く、35歳以上の方の死亡率が増加しています。早期発見が重要で、早期に見つければ比較的治りやすいがんです。



早期発見のために、市のがん検診をご利用ください

がん検診の受診対象年齢は、胃がん、肺がん、大腸がんおよび乳がん検診が40歳以上。子宮がん検診は20歳以上です。前立腺がん検診は51歳以上の奇数年齢の男性が対象です。

乳がん、子宮がん検診は2年に1回、その他は毎年受診できます。

がん検診を希望される場合は、保健センターまでご連絡ください。受診票を自宅に郵送しますので、到着後、市内の医療機関に予約し、受診してください。

子宮がんの集団検診(年5回実施)については、随時、回覧などでお知らせします。

【市のがん検診】

がん検診の種類
胃がん検診
肺がん検診
大腸がん検診
前立腺がん検診
子宮がん検診
乳がん検診